

## 年貢のように苦しめる消費税

高知の会 中根 耕作さん



生まれた時から、消費税が「当たり前」の世代も増えてきました。消費税が導入された時、私は子どもながらに「10円ではおやつが買えなくなるのでは」と不安になった記憶が。消費税率が上がるたびに、当然のように物価も上がり、物価が上がれば、さらに消費税分の負担が増える。低賃金で、車が生活必需品の地方でも、負担は増すばかり。「500円くらい」という感覚の人も、「あと500円しかない」と飢えをしのぐ人も、平等に負担する消費税。不公平税制そのものです。江戸時代の年貢のように人々を苦しめています。もつとも、民主主義の現代であれば私たちの声で無くすことも！消費税がないという「当たり前」を、ご一緒に取り戻しましょう。

## 祝 ノー消費税400号に寄せて

## 消費税廃止運動に携わって35年

熊本の会 西川 悦子さん



消費税が導入された1989年にわが家の消費税負担はどれだけになるのかを調べるために新婦人家計簿モニターになりました。当時親子4人（子は未就学）で消費税額はすべての衣食住含めて月額12000円でした。現在は6人家族で消費のみで5772円になっています。3回の税率引き上げと物価高の影響で消費税額も大幅に増えています。衣食住全体となれば年間で10万円は軽く超えてしまいます。これは私の1カ月分の年金より多くなります。毎月24日に商店街で宣伝をしています。私は「消費税は社会保障の財源だから必要と言う方もおられます。しかし、社会保障は充実してきましたか。安心して老後を暮らしていますか。」と呼びかけています。

## 呼びかけに応じて読者拡大

群馬県高崎市 瀬川 文子さん



前に私が勤めていた職場の人たちを中心に「消費税をなくす会」を立ち上げました。その後群馬県の消費税をなくす会の世話人になり、県内の各政党に消費税をなくす会の世話をしたり、宣伝を行ったりいろいろな活動をしてきました。その後コロナ禍や、私も体調を崩し、世話人会の人たちも高齢化や体調不良などで全体として活動できなくなっていました。そんな中でも「前橋ネットワーク」は頑張っていました。会長が亡くなったことで全面的な活動中止に追い込まれました。そんな中「第35回総会参加の呼びかけ」で「財政強化のためにも会報を増やそう」という呼びかけを見て、私にも会報を増やすことならできると思い4人の読者を拡大しました。これからも頑張ります。

## 会の自立と安定のため読者拡大に努力

福島の会 平 範男さん



消費税に関心を持たざるをえなかったのは、医療生協の運営を担当していた1989年4月消費税施行のとき。新たに数千万円の負担が発生し、ベ・アどころではなく労組に消費税反対の共闘を提起した時でした。現役を退いた16年ごろから「ノー消費税」を読み「なくす会」の事務局会議に参加。消費税が理屈でなく生活に重くのしかかっていること（家計簿等つけていれば尚、国保税軽減等の各地の運動を知る上でも貴重です）財界の政策買収、政党評価、献金斡旋実態もあれば尚。同時に会費のない会の財政はカンパと会報の収益しか無く、会の自立と安定を考えれば増加は必須であるが現状は厳しい（事務局の苦勞を思う）。増紙に努力しよう。